

ヘリで搬送、連携確認

羽島郡消防や
松波総合病院 水難救助、合同訓練

要救助者を病院まで搬送する県防災航空隊と羽島郡広域連合消防本部、松波総合病院(笠松町)による合同救助訓練が同町内で行われた。

木曽川の増水により、川の中州に要救助者2人が取り残され、低体温症の疑いがあるという想定。

岐南町民運動場を川に見立て、消防本部が救助した2人を航空隊のヘリコプターでつり上げ、同病院へ搬送。同病院の北館屋上ヘリ

ポートに下り、航空隊員が要救助者2人を連れて、屋上からエレベーターでつながっている救急外来まで運んだ。

同病院救急総合診療科の八十川雄図部長は「防災ヘリが必要な事案は重傷者や多数の傷病者がいる現場が対象。重傷者らの救命に備

ヘリコプターから降り立ち、両脇の要救助者を誘導する航空隊員。笠松町田代、松波総合病院北館屋上ヘリポート



え、関係機関との連携を深めていきたい」と話した。
(長尾剛次)